

科目名	障害児保育Ⅱ		担当教員	大村 あかね		
			担当形態	単独		
テキスト	「障がい児保育の基礎」わかば社	単位数 授業形態	1単位	演習	開講時期	前期
<p><b>講義概要</b></p> <p><b>■到達目標</b></p> <p>「障害」とはなにか、子どもの障害ということを考えて時に踏まえる必要があることはなにかを知り、実際にどのような視点をもって一人ひとりの子どもと向き合い、保育をしたらよいのかを考えることができるようになるために、本授業では以下の3点を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの障害や、そこから派生する様々な事柄を、子どもやその身近な人々の体験として理解する視点を持つことが出来る。</li> <li>・障害児保育の成り立ちと制度について理解し、子どもを支える関係機関の役割を知り、説明することが出来る。</li> <li>・障害児保育の具体的な方法や、さまざまな保育上の課題について、自分の考えを述べる事が出来る。</li> </ul> <p><b>■授業の概要</b></p> <p>「障害児保育Ⅰ」の授業での学びを基礎とし、実習等でのさまざまな体験を踏まえながら更に実践的な関心を深めていきます。特に、障害をもつということ、他人事ではなく我がこととして捉え、一人ひとりの子どもの内面を理解し向き合う意味を学びます。また、障害児保育のなりたちと制度を学ぶことを通して、障害を持つ子どもが置かれている社会的な立場や「生きにくさ」について考えます。更に、保育の中での援助の実際と関係者や関係機関について学び、保育者という立ち位置で果たされる役割とは何かを考えます。</p> <p>毎回の授業後に、授業後ワークの記入をし、学んだことを整理して頂きます。演習に積極的に参加する中で、常に、「保育者」としてのスタンスを忘れず、自分に引きつけて考えることを心がけて下さい。障害について学びながら、保育の学びが深まっていくはずです。</p> <p><b>■授業計画</b></p> <p>第1回 オリエンテーション～保育実習での体験から出発する～</p> <p>第2回 障害の捉え方と障害児保育の歴史</p> <p>第3回 障害児保育における基本的姿勢</p> <p>第4回 身体に障害を持つ子どもの理解と援助</p> <p>第5回 発達に遅れがある子どもの理解と援助</p> <p>第6回 発達障害児を含む、固有のニーズをもつ子どもの理解と援助</p> <p>第7回 障害を持つ子どもの内面世界について考える</p> <p>第8回 障害を持つ子どもの家族について考える</p> <p>第9回 「その子」の支援体制を作る～保育の計画・記録・評価～</p> <p>第10回 一人ひとりの発達をうながす環境づくり／子ども同士の関わりと育ち合い</p> <p>第11回 保育上のさまざまな課題～みんなの中で生きる～</p> <p>第12回 障害を持つ子どもを支える制度の現状と課題</p> <p>第13回 障害を持つ子どもの生涯を見通した関係機関との連携と課題</p> <p>第14回 これまでのまとめ・期末試験</p> <p>第15回 授業の総括</p> <p><b>■準備学習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に授業で指定された課題には必ず取り組み、予習をしておくこと。</li> <li>・授業終了後は、授業後ワークでその日の授業で感じたこと、学べたことをふり返って整理し、期限までに必ず提出すること。</li> </ul> <p><b>■評価方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間内の取り組み（参加状況・授業内ワークを含む） — 20%</li> <li>・授業後ワーク — 30%</li> <li>・期末試験 — 50%</li> </ul>						
参考文献	鯨岡峻編 「最新保育講座 障害児保育」(第2版) ミネルヴァ書房 2013年	特記事項	【課題等のフィードバック方法】 授業後ワーク、レポートなどは、必要に応じてコメントを記入し、必ず学生に返却する。			
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修	幼				
		保	保育の内容・方法に関する科目			